

内江積登せ可申候、諸事菜種同様に相心得可申候、

右之趣此度改相觸候上は、大坂江積登せし菜種綿實他所にて猥道買或は舂下買、且隠絞致間敷候、勿論大坂表問屋共、菜種賣買込外の紛鋪儀、向後不爲致、尤是迄取扱候口錢の掛り物迄も、今般相改引下げ、大坂問屋々々にて、明細に懸札に記差置、無謂餘慶之懸り物無之様、取計聊疑敷儀致間敷候、若用ひざる族於有之は、遂吟味曲事に可申付條、諸國一統急度可相守候、右之通、御料は御代官、私領は地頭より可觸知候也、

八月

〔農稼肥培論中〕綿實粕

此綿實は、畿内にて専ら絞り、關東にて聊絞る計にて、北國西國にて曾て絞る事なければ、肥しに用ふる事もなし、

〔廣益國產考五〕綿草綿

綿は用ひざる國なければ、何れの國にても作るべき物なれ共、東海道にては、尾張、三河、遠江、駿河は作れども、關東北國にて餘り作ることを聞ず、又九州の地は、能心がけて種々の産物を出せども、綿を作る事は疎にて、多く中國の綿を求め用ひ來れり、然れども、豊後國日田郡の内隈町豆田町といへる所、其間十町も隔りぬる近邊兩所の四方計り、綿を作り出し、爲金凡千兩位は取入るよし、其外に家内にて著用の島木綿を織て用ふる所は、凡七八百兩は取入るべし、○下略

〔甲子夜話四十六〕播州ニ褐色ノ草綿アリ、生織ノマ、ニテ、染タル如シトイフ、又綠綿モアリ、是ハ明石ノ邊ニ種ヲ傳ルトゾ、カノ地其種ヲ愛惜シテ他ニ出サズト云、

〔甲斐國志百二十三〕一木綿 古終ナリ、和名キワダ、畿内國和州產上品トス、凡暖地ニ宜シ、於東海諸國本州ノ産ハ、其色皎白ニシテ綿強シ、巨摩、山梨中郡多且美ナリ、奈胡庄最名産トス、四方ニ